

平成28年度第2回京丹波町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年2月13日（月）
開会：午前9時30分 閉会：午前11時41分
- 2 開催場所 京丹波町中央公民館
- 3 構成員出席者 7名
寺尾豊爾町長 松本和久教育長 櫻井博規教育長職務代理者
藤田道子委員 竹吉美公委員 上田明成委員 竹内裕子委員
- 4 事務局出席者 9名
中尾総務課長 川畷教育次長 山根社会教育課長
徳島学校教育課課長補佐 木下社会教育課課長補佐 山内学校教育課主任
原澤総務課課長補佐 小林総務課係長 井口総務課主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議の概要

〈開会：午前9時30分〉

○開会
寺尾町長挨拶
松本教育長挨拶

○協議事項

(1) 認定こども園の開設準備状況について

 - ・認定こども園の開設準備状況について、事務局より説明。

【事務局】 認定こども園の開設準備状況について、現時点での素案を含めて説明しましたが、内容についてご質問・ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

【委員】 現在のバス通園から、認定こども園では保護者送迎へと変更する説明だったが、保護者ニーズに寄り添った安全な形になるとよい。行事の場合など駐車場の確保も大事になってくる。1号認定児童（幼稚園）に対して一時預かりを検討されるとのことで、保育所と幼稚園の良さが融合した、町独自の認定こども園になることを期待している。給食の導入は保護者にとって本当に有難いことである。

【事務局】 内部での検討段階ですが、通園バスについては、現在あるものを無くすことにな

り、今後保護者等の意見を伺う中で手段を検討していきます。施設整備を行う中で駐車場についても、十分議論していきます。また、夏期休業期間の児童の教育は大変重要だと思いますし、町の特色にもなると思いますので、議論を重ねていきます。給食については、完全給食の方向で進めていきます。

【委員】幼稚園教育要領と保育所保育指針とをどのように整合性をつけていくのか気になる、内閣府のホームページで、教育課程における審議のまとめを読んだが、さきほど説明のあった提案に含まれていた。また、教育要領に基づき行う幼稚園教育と保育指針に基づき行う保育所教育をうまく融合させて、新たにこども園用の教育・保育要領が策定される動きがあることが分かったが、その内容が含まれた資料となっており、町として十分議論がされているので安心した。2号認定児童（保育所）と1号認定児童（幼稚園）が、教育・保育要領に基づき、一緒に活動する時間があるが、両方の良さをうまく取り入れ、特色あるものにして欲しい。小学校、中学校、高校にかけて身につけていく力を、教育・保育要領の中にも組み込んでいくとあり、長いスパンで子どもの育ちを見ていくことになる。これから認定こども園を形作っていく中で、十分な検討を望む。

【委員】認定こども園の成功を目指すということは、義務教育のベースを作ることである。そのためにもスタートが肝心である。開設へのモチベーションを5つ考えた。1点目は方向性。保護者が納得出来るかが大切。保育所と幼稚園のそれぞれの立場で公平感、一体感を感じるものでないといけない。経営理念やコンセプトを分かりやすく表現したパンフレットを作るのもよい。試行錯誤することになると思うが、具体的にシミュレーションしていくのが重要となるのでは。

2点目は有益性。認定こども園のメリットの説明責任を果たす必要がある。そのためには現時点でどんな課題や成果があるのか整理して把握しておくこと。珍しいことより、当たり前のことができるカリキュラムがまず大事であり、信頼感を得ることになる。

3点目は専門性。質をどのように高めるか。実践において、保育所・幼稚園の先生の指導力、資質をどのように高めるかが重要。保育士の過労や人手不足の問題がテレビで取り上げられているところだが、労働面からも適切な運営が必要である。

4点目は教育性。保護者が子どもの教育を通じて、どのように成長していけるか、先生が保護者を支援し、共に助け合っていけるかが問題となる。親によるしつけや道徳観が大事なことから、親に安心感や意欲を与えていく関係作りが出来ればよい。

5点目は安心性。安心して子どもを預けられる、給食の安全管理など、マニュアルやコンプライアンス体制を作ること。具体的なモデルを示して、検討していく必要がある。

【委員】過去からの経過もあるので、利用者が求めるものを作るのは大変だと思う。だが、利用者の希望を土台として、しっかり計画して欲しい。せっかく作ったのに、利用価値の低いものにはならないように。

【委員】今よりすばらしいものが出来るのを期待している。認定こども園への移行に関する意向調査が実施されているのであれば、データを提供して欲しい。

【事務局】現在のところ、意向調査としての結果は示されていませんが、今後アンケートなどで分析が出来てくると思いますので、その時にお示しします。

【教育長】認定こども園への移行は、平成29年度の重点施策であると町長から示されている。すべての子どもの可能性を最大限に伸ばせる認定こども園にしたい。子どもには自ら伸びる力があるが、それを引き出し、豊かな自然環境の中、のびのびと安心して活動できる認定こども園にしたい。それを町の特色の一つとしたい。3世代同居が珍しくなった現在、地域によって支えられるカリキュラムを、教育方針で実現出来るよう現場と議論していく。日本一の認定こども園を目指すよう町長からも言葉があったが、教育内容を工夫し、通いたいと言われるこども園にしたい。今は教育を提供する側の意見で計画案を作成しているが、次年度は保護者をはじめ、町内の様々な立場の方から意見を聞き、良いものを作りたい。

【町長】利用者、保護者の意見を聞いて、本物の計画になる。認定こども園への移行は、利用者が保育所と幼稚園両方の良さを求めた結果で、あるべき姿である。自然豊かな所に建てれば、子どもはのびのび育つので、施設を作るときには、まず場所が大事である。

【教育長】豊かな自然の中に建てるという設置場所についての町長の考え方は重要である。担当部局としても、そういう思いで今後も検討していきたい。

【町長】思いや考えに対して、すぐ反応し、行動を起こしてくれるのはうれしい。

【委員】保育所の設置に住民が反対したり、裁判になったりするニュースがある中で、町長のお話を聞いて、利用者、保護者、職員にとって素敵なこども園になると期待している。

【町長】そうありがたい。

(2) 京丹波町の教育について（意見交換）

・平成29年度における学校教育の方向性（新学習指導要領への移行、アクティブラーニングへの対応、小学校への英語科設置、小学校の今後の在り方、情報機器の更新）について、教育長より説明。

【事務局】平成29年度における学校教育の方向性について教育長から説明がありましたが、内容についてご質問・ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

【委員】2020年に大学受験の方法が変わるとテレビで見たが、それもアクティブラーニングの延長である。英語教育も必須になるなど教育環境や教育の考え方が、数年毎に大きく転換し、生徒、先生、保護者も適応するのに大変である。新学習指導要領に基づきながら、うまく進んでいけたら良い。

【委員】アクティブラーニングを身に付ける土台は、基本的な学力をしっかりと学ぶことにある。特別支援学級の生徒の中には、集団の中で学ぶことが困難な生徒もいるので、そのような生徒のことも大事に考えないといけない。

【教育長】特別支援にかかる学校教員の増員を文科省に要望しているが、増員が厳しい状況となっている。今後も人材配置に努力していきたい。

【委員】時代、社会の動向により、教育のキーワードも変わっていく。英語教育は大事だが、まず日本語力が基礎となる。英語を単なる技術としてではなく、文化も含めて学ぶ体制に、先生の足並みを揃えてほしい。

【委員】現在の子どもたちは、将来社会人となったとき、65%が現在存在しない職業につくという情報を聞き驚いた。教育する先生も大変だと思う。

【委員】教育の土台をしっかりと作ることが大事である。

【教育長】本町の予算規模からみても、環境整備など教育に大きな投資をしてもらっており、感謝している。毎年教育委員が学校訪問を行い、客観的な視点から意見をいただくことで、本町の教育が前進出来る。

【町長】学校に来て欲しいと校長から要望をいただくが、なかなか行けないのが現状であるので、学校の様子を教えて欲しい。

【委員】それぞれ学校には特色がある。蒲生野中学校の玄関に入った瞬間から、雰囲気良くなったと感じた。教室の掲示物やロッカーの整頓を見ても昨年度に比べて良くなった。良い学校生活が送れていることが分かる。和知中学校においては、美術や音楽など一人一人が活躍している。瑞穂中学校でも整理整頓がされており、絵の表現力がすごいことから、楽しく生活しているのが分かる。下山小学校において、大雪の際に連携をとって対応してもらったことに感謝する。

【町長】積雪対策の関係者に伝えておく。

【委員】蒲生野中学校が落ち着いてきており、大変良くなったと感じる。和知中学校では、板書をしっかりとされ、生徒の発言も多いなど、今までの中学校のイメージが覆った。

【教育長】委員から、学校訪問の際に中学校3年生の教室で一緒に給食を食べたいとの要望があり実施したが、どうだったか。

【委員】楽しく一緒に給食を食べた中で、以前より先生と生徒の距離感が近く、コミュニケーションがとりやすくなっていると感じた。

【委員】成人式に参加した時に、来賓者から、本町は魅力的な町であり、将来戻って来てほしいという言葉聞き感銘を受けた。学校それぞれの特色や良さを共有するために、時代に沿ったビジュアルなDVDやテキストを作ったり、CATV放送を一緒に見たりすることで、校区以外に視野が広がり、生涯教育に繋がる。

【委員】和知小学校の校舎内には、多くの作品が展示されており、生徒の個性が引き出されていると感じた。町の駅伝大会では今年度たくさんの参加があり、各学校でしっかり取り組んでもらっている。

【教育長】全ての学校が落ち着いている。学校の良さをそれぞれ磨いており、今後の教育基盤が整いつつある。この1年で特に蒲生野中学校は大きく前進した。生徒だけでなく、教員も駅伝大会に参加したことからも、生徒と教員が一体となって学校をさらに良くしていこうという意識を感じる。

【町 長】 良い話を聞いた。また学校にも行きたい。人間は感情の動物であり、最大の感情は、家族愛、ふるさと愛になる。その意味でも、人格が形成される18歳までの教育を本町で行うことが大事だと考える。就学前教育は人生を豊かにすることから、そこに町の予算を使いたい。歴史、文化、景観を生かした地域づくりが大事だ。それをするには地元での人材育成が必要となる。住んでいる人が誇りに思う町づくりこそが地域創生である。原風景を取り戻し、さらに彩りを加える町づくりには、数十年かかるが、そういう本物の町づくりをしないといけない。京丹波町は昨年バイオマス産業都市に選定されたが、木を使った学校が理想である。

家庭環境など様々な要因がある中で、子どもの教育を行うことは難しいが、今回しっかりと意見交換が出来て良かった。

○閉会

櫻井職務代理者挨拶

〈閉会：午前11時41分〉

会議の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、町長及び教育委員会が署名する。

■ 町長 _____

■ 教育長 _____

■ 教育長職務代理者 _____

■ 委員 _____

■ 委員 _____

■ 委員 _____

■ 委員 _____